

2024年度「専門特殊研究」研究会一覧

文学学術院

2024年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容はWebシラバスには掲載されていないので、ご承知おきください。

【専門特殊研究について】

高度な原典購読や資料解説、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

<履修について>

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会（4単位）までの単位認定が可能です。
- 入学後2学期目から卒業見込み学期の前学期まで履修することができます。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

<成績について>

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を取めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究（主題・担当教員名） 配当年度 配当学期」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

（以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順）

	※4/12更新			
春学期	火	4時限	実施曜日・時限	
	月	3時限	の特記事項	
参加可能年次	主題			担当教員
2年以上	アラビア語原典講読			岡 真理

研究概要

アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の構構やナラティブ、語彙の選択等、作品の「表現」のありようにも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、文学的な日本語訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、中東の現代世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

講読するテキストは、参加者の関心や希望、レベル等を踏まえて選びたいと思います。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で、準備してきた日本語訳を提示します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。第1回目の授業時に研究室にお越しください。

備考

アラビア語初級の単位を取得していること(もしくは、アラビア語基礎文法の基本的事柄を習得していること)。

春学期**木****4時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

中世アラビア語原典史料購読1

担当教員

五十嵐 大介

研究概要

本授業は、中世のアラビア語の原典史料(年代記、人名録、地誌、寄進文書など)の講読を通じて、マムルーク朝時代(1250-1517年)の中東・アラブ地域の歴史研究の作法を学ぶものである。史料の読み解き方を習得するとともに、それがマムルーク朝史の既存の研究成果とどのようにかかわっているのか学んでいく。単なるアラビア語の授業ではなく、この時代の原典史料に特有な性格(記述のスタイルや含まれる内容)を把握し、歴史研究のための史料として読み解いていくことを目的とする。受講生には中級以上(初級文法を一通り習得し、辞書を引きながら文章が読めるレベル)のアラビア語の知識に加え、イスラームや中世アラブ史、マムルーク朝史についての知識と、それを深めていこうという熱意が求められる。

使用文献

イブン・タグリービルディー『時代の出来事Hawadith al-duhur』、マクリーズィー『エジプト地誌Khitat』など

活動記録の内容、提出方法

平常点により評価する。

受講者選考方法

受講を希望する場合は初回の授業に必ず出席してください。アラビア語の学習状況や中世アラブ史についての知識や取り組みについて問う面談を経て、受講の可否を決定します。【初回授業】2024年4月18日(木)4時限目、39号館3階2321中東・イスラーム研究コース室

備考**春学期****木****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

和歌テキスト原典講読1(新古今研究会)

担当教員

兼築 信行

研究概要

和歌に関係した資料、歌集や歌合、定数歌、また歌学書など、参加者の希望を尊重しながら相談によりテキストを決定し、輪読形式で読解を進める。2023年度春学期は、六百番歌合を輪読した。早稲田大学国文学会の学生研究班活動の一つでもある。和歌に関心のある人であれば、参加資格は問わない(学部生、大学院生、他大生、社会人も参加している)。また全くの初心者であっても、和歌の調べ方や文献など、基本から身に付くよう指導するので、心配は要らない。

使用文献

すべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

輪読形式により、毎回担当者が発表を行い、それに対するディスカッションを行う。単位認定の要件は、3分の2以上の出席と、1回以上の輪読発表を行うこととする。

受講者選考方法

担当教員宛にメールを送り(knck@waseda.jp)申し込むこと。その際、和歌についてどのような関心があるかを記して欲しい。追って、研究会の幹事から、参加要領について案内を送る。原則として、希望者に呈しては参加拒否を行わない。

備考

春学期**金****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

ドイツ近代哲学(原典)講読

担当教員

御子柴 善之

研究概要

18世紀プロイセンの哲学者、イマヌエル・カントの『純粹理性批判』から、特定の箇所を選び出して、それをドイツ語原典で検討します。今回の検討箇所は、「超越論的論理学」の冒頭を予定しています。

使用文献

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft. PhB版から教員がコピーを作成して使用します。

活動記録の内容、提出方法

ドイツ語原典を一文ずつ、きわめてゆっくり読み進めます。参加者は毎回、ドイツ語の音読と日本語への翻訳を担当します。評価は、出席状況、翻訳担当、議論への参加状況によって行います。なお、教室は、参加者の人数を見ながら決めますが、教室あるいは研究室です。

受講者選考方法

選考はしません。ドイツ語の初歩を学んだことがあることが望ましいのですが、ドイツ語を学びながらの参加も可とします。参加希望者は、担当教員までメール(mikoyuki@waseda.jp)でご連絡ください。

備考

2024年5月17日(金)は休講にします。その日の分は、参加者全員の都合に合わせて、補講を行います。

秋学期**月****4時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

中世アラビア語原典史料購読2

担当教員

五十嵐 大介

研究概要

本授業は、中世のアラビア語の原典史料(年代記、人名録、地誌、寄進文書など)の講読を通じて、マムルーク朝時代(1250-1517年)の中東・アラブ地域の歴史研究の作法を学ぶものである。史料の読み解き方を習得するとともに、それがマムルーク朝史の既存の研究成果とどのようにかかわっているのか学んでいく。単なるアラビア語の授業ではなく、この時代の原典史料に特有な性格(記述のスタイルや含まれる内容)を把握し、歴史研究のための史料として読み解いていくことを目的とする。受講生には中級以上(初級文法を一通り習得し、辞書を引きながら文章が読めるレベル)のアラビア語の知識に加え、イスラームや中世アラブ史、マムルーク朝史についての知識と、それを深めていこうという熱意が求められる。

使用文献

マクリーズィー『諸王朝の知識の旅Suluk』、イブン・イヤース『花々の驚異Bada'i al-zuhur』など

活動記録の内容、提出方法

平常点により評価する。

受講者選考方法

受講を希望する場合は初回の授業に必ず出席してください。アラビア語の学習状況や中世アラブ史についての知識や取り組みについて問う面談を経て、受講の可否を決定します。【初回授業】2024年10月7日(月)4時限目、39号館3階2321中東・イスラーム研究コース室

備考

※4/12更新

秋学期

火

4時限

実施曜日・時限
の特記事項

参加可能年次

2年以上

主題

アラビア語原典講読

月

3時限

担当教員

岡 真理

研究概要

アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の結構やナラティブ、語彙の選択等、作品の「表現」のありようにも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、文学的な日本語訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、中東の現代世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

講読するテキストは、参加者の関心や希望、レベル等を踏まえて選びたいと思います。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で、日本語に翻訳します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。第1回目の授業時に研究室にお越しください。

備考

アラビア語初級の単位を取得していること(もしくは、基礎文法の基本的事柄を習得していること)。春学期に履修していなくても、受講できます。

秋学期

木

5時限

実施曜日・時限
の特記事項

参加可能年次

1年以上

主題

和歌テキスト原典講読2(新古今研究会)

担当教員

兼築 信行

研究概要

和歌に関係した資料、歌集や歌合、定数歌、また歌学書など、参加者の希望を尊重しながら相談によりテキストを決定し、輪読形式で読解を進める。2023年度秋学期は、左近権中将俊忠朝臣家歌合のすべてを輪読した。早稲田大学国文学会の学生研究班活動の一つでもある。和歌に関心のある人であれば、参加資格は問わない(学部生、大学院生、他大生、社会人も参加している)。また全くの初心者であっても、和歌の調べ方や文献など、基本から身に付くよう指導するので、心配は要らない。

使用文献

すべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

輪読形式により、毎回担当者が発表を行い、それに対するディスカッションを行う。単位認定の要件は、3分の2以上の出席と、1回以上の輪読発表を行うこととする。

受講者選考方法

担当教員宛にメールを送り(knck@waseda.jp)申し込むこと。その際、和歌についてどのような関心があるかを記して欲しい。追って、研究会の幹事から、参加要領について案内を送る。原則として、希望者に呈しては参加拒否を行わない。

備考

秋学期**金****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

ドイツ近代哲学(原典)講読

担当教員

御子柴 善之

研究概要

18世紀プロイセンの哲学者、イマヌエル・カントの『純粋理性批判』から、特定の箇所を選び出して、それをドイツ語原典で検討します。今回の検討箇所は、「超越論的論理学」の冒頭を予定しています。春学期の研究会で読み終わったところから、引き続いて検討します。

使用文献

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft. PhB版から教員がコピーを作成して使用します。

活動記録の内容、提出方法

ドイツ語原典を一文ずつ、きわめてゆっくり読み進めます。参加者は毎回、ドイツ語の音読と日本語への翻訳を担当します。評価は、出席状況、翻訳担当、議論への参加状況によって行います。なお、教室は、参加者の人数を見ながら決めますが、教室あるいは研究室です。

受講者選考方法

選考はしません。ドイツ語の初歩を学んだことがあることが望ましいのですが、ドイツ語を学びながらの参加も可とします。春学期の研究会に参加していない方でも、参加可能です。参加希望者は、担当教員までメール(mikoyuki@waseda.jp)でご連絡ください。

備考

以 上